



第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 基本計画

1 目的

ろう者とろう者以外の者が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話言語を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話言語の魅力や手話言語が優れた意思及び情報伝達手段であることを実感してもらうとともに、手話言語とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を“手話の聖地”鳥取県で開催する。

2 主催

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

3 共催

鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会

4 特別協賛

日本財団

5 特別協力

一般財団法人全日本ろうあ連盟

6 後援（予定）

内閣府、厚生労働省、文部科学省、鳥取市、手話を広める知事の会、全国手話言語市区長会、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、一般社団法人日本手話通訳士協会、全国聾学校長会、全国高等学校文化連盟、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団、社会福祉法人NHK厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、日本演劇教育連盟、日本障害フォーラム、日本赤十字社鳥取県支部、鳥取県青少年赤十字指導者協議会、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK鳥取放送局、BSS山陰放送、日本海テレビ、TSK山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、エフエム山陰、FM鳥取、DARAZ FM

7 開催日及び場所

(1) 本大会

ア 開催日 令和元年(2019年)9月29日(日)

イ 場所 とりぎん文化会館 梨花ホール(鳥取市尚徳町101番地5)

(2) 交流会

ア 開催日 本大会の前日

イ 場所 鳥取市内

(3) 予選審査会・結果発表

ア 開催日 令和元年8月1日(木)、2日(金)

イ 場所 鳥取市内

8 参加募集

令和元年5月20日(月)から7月5日(金)まで ※予選審査動画の提出期限:7月19日(金)

9 参加資格

高等学校(中等教育学校の後期課程を含む)・特別支援学校高等部・高等専門学校(3年生まで)・専修学校及び各種学校の修業年限が高等学校と一致している生徒(校長の推薦書が必要)

10 演技内容

手話言語を使った歌唱、ダンス、演劇、ポエム、コント、落語、漫才など
(1チームあたり6分以上8分以内)

11 本大会出場チーム

予選審査を通過した15チーム

①地方ブロック枠:6チーム、②得点順枠:6チーム、③合同チーム枠:1チーム、

④初出場枠:1チーム、⑤開催地枠:1チーム から選出

12 表彰

優勝、準優勝、第3位、審査員特別賞、全日本ろうあ連盟賞、日本財団賞、鳥取県聴覚障害者協会賞、その他全ての出場チームに賞を授与する。

13 審査

(1) 予選審査会

ア 審査方法

動画視聴による審査（3分以内）を行い、手話言語の正確性・分かりやすさと演出力・パフォーマンス度の観点から採点し、本大会出場チームを決定する。

イ 審査員

4名（聞こえる人2名、ろう者2名）

(2) 本大会

ア 審査方法

ステージ演技による審査を行い、手話言語の正確性・分かりやすさと演出力・パフォーマンス度の観点から採点し、各受賞校を決定する。

イ 審査員

6名（聞こえる人3名、ろう者3名）

14 本大会及び交流会の内容

(1) 本大会

ア 時間（予定）

午前9時30分から午後4時まで

イ プログラム

- 1) 開会式（関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介等）
- 2) 出場チーム演技（演技時間：1チーム当たり6分以上8分以内）
- 3) ゲストパフォーマンス
- 4) 審査結果発表・表彰式
- 5) 閉会

(2) 交流会

ア 時間（予定）

午後6時から午後7時30分まで（終了後30分間は高校生同士の交流時間とする）

イ 参加者

出場チーム（生徒・引率者）、出演者（司会、審査員等）、来賓、実行委員会関係者等

ウ プログラム

- 1) 関係者挨拶、乾杯
- 2) 歓談
- 3) 出場チーム抱負 等

15 その他

- ・大会の裾野の拡大やレベル向上を図るため、今大会より前に複数回参加申込をするも予選を通過したことのない学校を対象に、手話及び演技についてアドバイスできる者を希望する学校に派遣する
- ・ろう者とろう者以外の者との交流促進のため、大会への参加が、学校と各都道府県聴覚障害者協会との交流の契機となるよう、参加申込みした旨を学校から協会へ情報提供することを推奨

【参考添付】

第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 基本計画 変更要点

1 全国の精鋭が集う憧れの大会とするとともに、更に内容の濃い大会とする取組

① 本大会（本選）出場チームを15チームとする（現行20チーム）

- ・本大会（本選）出場校の更なるレベル向上を図り、全国の精鋭が集結する憧れの舞台となる大会を目指す
- ・時間的な余裕を生み出し、出場者及び観覧者双方ともに満足いただける質の高い大会とする

② 本大会（本選）出場チームは全国から選ばれた精鋭として、出場全15チームを表彰する

- ・本大会（本選）出場自体を栄誉として讃えて表彰することにより本大会本選の出場価値を高める

③ 手話・演技アドバイザーを希望する学校に派遣し大会レベルの向上を図る

- ・対象は、今大会より前に複数回参加申込をするも予選を通過したことのない学校とする。
- ・上記のうち希望する学校へ、手話及び演技についてアドバイスできる者を派遣し、大会の裾野の拡大及びレベルの向上を図る。

（派遣学校数：2校を想定、派遣時期：予選動画提出前）

2 ろう者とろう者以外の者との交流促進を図る取組

① 本大会（本選）出場チーム枠に、聴覚障がいを対象とする特別支援学校高等部とその他学校との合同チーム枠を新設する

- ・大会参加を通じて、聴覚障がいを対象とする特別支援学校（聞こえない生徒等）とその他学校（聞こえる生徒等）の交流促進及び相互理解促進により共生社会の実現に資する

② 大会を通じた学校と各都道府県聴覚障害者協会との関わりが生まれるきっかけづくり

- ・大会参加申込校の地元における聴覚障害者協会との交流促進の観点から、大会参加申込みした旨を学校が各都道府県聴覚障害者協会に情報提供することを推奨する